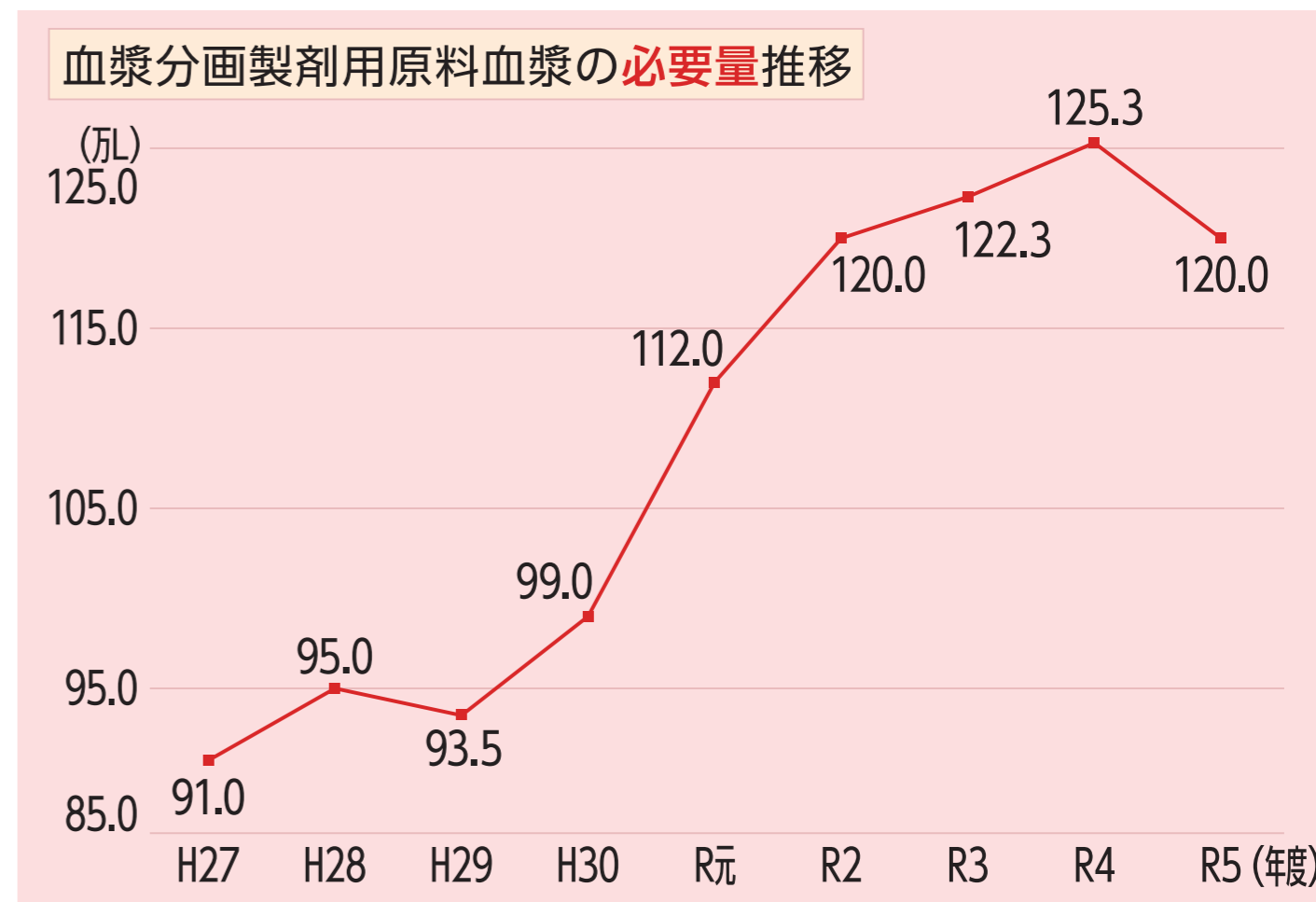


血漿分画製剤に関する課題と取り組み

世界中で血漿分画製剤の需要が増加

希少疾患の診断技術の向上による患者さんの増加、標準治療の向上、治療へのアクセス拡大により、ここ20年間にわたって、血漿分画製剤に対する需要が世界中で大きく増加しています¹⁾。

右図の通り、日本においても、血漿分画製剤の原料となる血漿の必要量が増加傾向にあることがわかります²⁾。



日本赤十字社HPより作成

<https://www.jrc.or.jp/donation/kessho/>

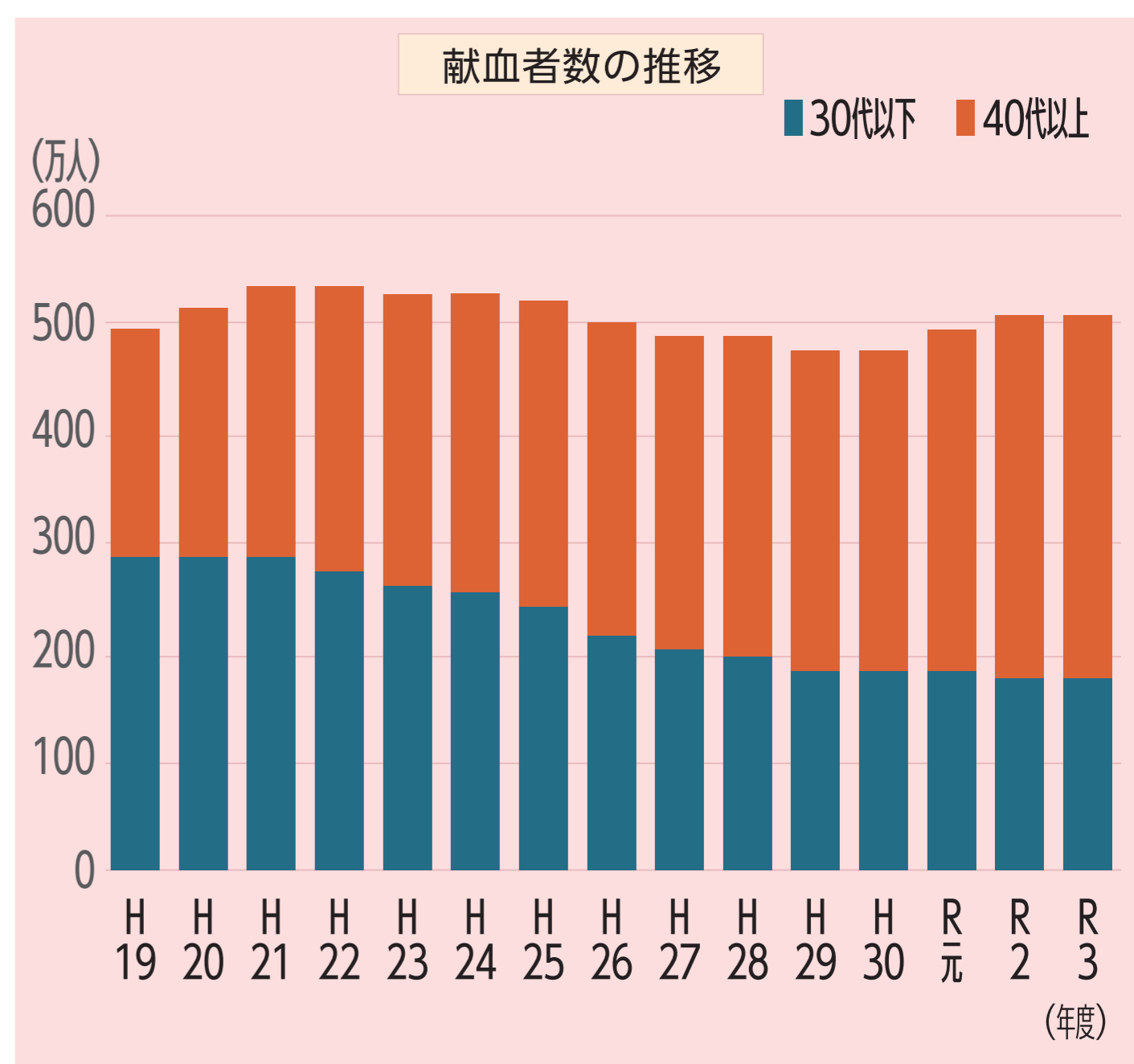
日本では若年層の献血推進が課題

近年、献血量と献血者数は増加傾向にありますが、30代以下の献血者数は、この10年で約34%も減少しており、全献血者に占める若年層の割合は減少しています³⁾。

将来にわたり安定的に血液を確保するためには、若年層の献血推進が重要です。

安定的な血液確保を目的として、厚生労働省と日本赤十字社は、献血者数が減少しがちな夏期や冬期には、「愛の血液助け合い運動」(7月)、「はたちの献血」キャンペーン(1~2月)等を行っています。

また、若年層の献血促進のために、啓発ポスターの配布、学校献血や献血セミナーを実施しています。



厚生労働省HPのデータより作成

<https://www.mhlw.go.jp/content/11120000/001071267.pdf>

タケダの血漿分画製剤におけるグローバルの取り組み

血漿分画製剤領域における先駆者として、世界中の患者さんに貢献しています。

20種類以上の血漿分画製剤

希少疾患におけるリーダー

患者さんのニーズに対する深い理解

グローバルファーマ

としての規模と専門性

デジタル技術やデータ解析、患者さんのインサイトなどの知見



血漿専門 の研究開発 (R&D) チーム

8
の製造拠点

80年間
血漿分画製剤領域における
先駆者としての歴史

- 出典 1) <https://www.takeda.com/jp/science/areas-of-focus/pdt/>
2) <https://www.jrc.or.jp/donation/kessho/>
3) <https://www.mhlw.go.jp/content/11120000/001071267.pdf>



RDD2024のすべてのパネルは
左の二次元コードからご覧いただけます。